

山梨県地域福祉支援計画 改定に係る 論点整理

1. 計画策定の趣旨について

【論点】

- ・様々な個性を持つすべての人が、それぞれの文化や生き方を認め、安心して暮らすことができ、かつ夢や希望を持って、に修正

【修正箇所】

〈策定の趣旨〉 1 ページ

情報通信技術の急速な進歩などにより、産業構造や社会構造が大きく変わろうとする中、子どもから高齢者まで、また国籍を問わず、様々な個性を持つすべての人が、それぞれの文化や生き方を認め、安心して暮らすことができ、かつ夢や希望を持って、活躍し続けられる地域社会を推進することが必要です。

夢や希望を実現し ⇒ 夢や希望を持って に修正した。

【意見】

- ・「安心して自分らしく暮らすことができる社会」における「自分らしく」の捉え方が人それぞれによる。
- ・「様々な個性を持つすべての人が、それぞれの文化や生き方を認め、安心して暮らすことができ、かつ夢や希望を実現し、活躍し続けられる地域社会を推進する」と「自分らしく」という表現に違和感がある。
夢や希望を実現し≠自分らしく。

〈考え方〉

「安心して自分らしく暮らすことができる社会」は、
計画の基本目標 33 ページ における

「誰もが様々な課題を抱えながらも住み慣れた地域で暮らすようにするためには、年齢、性別、障害の有無、言語、文化等の違いに関わりなく、全ての人が地域社会の一員として包摂され、多様なつながりの中で互いがかけがえのない人間として尊重し合い支え合う」社会を表現している。

基本目標の趣旨と策定の趣旨における表現が重なり合うことから、正しいメッセージを伝えるため修正。

表現は適切か。

2. 複数の問題を抱える方への支援について

【論点】

- ・複数の問題を抱える方への支援については、どのように連携して支援につながるかが課題であり、今後の検討を視野に、情報提供等を通じた連携や役割を明確化することの必要性を追加。

【追加箇所】

〈取組主体事の役割〉 34ページ

「また、複数分野の課題を抱える方に対しては、行政も含めた関係機関が支援に必要な情報の提供や共有を通して連携していく中で、それぞれの役割を明確化することが求められています。」を追加。

【意見】

- ・複数の問題を抱える方への支援については、どのように連携して支援につながるかが、重要であり、いくつかのモデルをつくり、役割が見える化していくことが必要である。
- ・誰が情報を提供するのかなど、再度グランドデザインも含めて、ここで共有することが大切である。

〈考え方〉

複数分野に課題を抱える方に対する対応は、重要な課題であると同時に、解決が難しい課題でもある。

そこで、今後、本審議会で見解をいただきながら、必要な情報の提供や共有のあり方、それぞれの役割の明確化について検討することとした。

内容は、適切か。

3. 外国人材について

【論点】

- ・外国人材について、福祉人材の不足が懸念される中、今後の検討を視野に外国人材の受入や受け入れた外国人を養成することの必要性を追加。

【追加箇所】

〈施策の柱（2）〉 40ページ

「生産年齢人口が減少する中で、福祉・介護サービスに従事する人材の確保が難しい状況となっていることから、外国人材の受入や受け入れた外国人の養成についても検討する必要があります。」を追加。

【意見】

- ・外国人就労に関して、精神医療の分野では、現在のところ影響が少ないが、今後、マンパワーが不足することが予想されるので、外国人材の受入の可能性は高いのではないか。
- ・外国人材については、各県とも取り合いになっている。山梨県に来ていただくためには、富士山の魅力を生かしつつ、交通手段を確保する必要がある。

〈考え方〉

外国人材の受入については、福祉人材の不足が懸念される中、今後、県の担当課で示す外国人材の受入に関するビジョンの内容を踏まえ、外国人材の受入や受け入れた外国人の養成に関する具体的な取組を検討することとした。

内容は、適切か。